

『INCHの楽しい仲間たち』 vol.8 その6

クリスマスとホグマニー（その4）

佐伯 順弘（岐阜県）

DAY9（31DEC2012）エジンバラ滞在



エジンバラの海を見ていた。日が落ち、気温は既にかかなり下がっていた。海を眺め、満足したので街中に帰ることにした。ずいぶん街外れの場所に来ていたが、幸い近くにバス停をみつけた。時刻表を見るとしばらくは来ないようだが、まあいい。



寒いし、腹も減った。しかし、この状況を味わえる自分を楽しんでた。そして、こんな時、様々なことを考える。こんな時とは、ただ待つだけの時とか、何時間も山道を歩く時とか、眠れない夜とかそういう時だ。こういう時は、今、日本や世界、地球で起きている様々な問題について考える。解決するにはどうしたらよいか。ほとんどの場合、素晴らしい解決策を思いつくが、それを喜ばない者の存在にも同時に思い当たる。彼らをどう排除するかを考え始めるが、そもそもそんなことがゆるされるのか。持つ者が持たざる者を苦しめることによって世界が成り立っているという簡単な前提にたどり着いて絶望する。そして、自分の発想も持つ者の身勝手

な発想でしかないことに気づかされる。それでも、なんとかできないだろうか・・・

おっと、バスが来た。手を横に挙げ、乗る意思を表現する。温かい車内。シートに収まると目を瞑った。20分くらいで目的地付近まで着くと予想して、そのくらいの時間眠る。この計算はいつも正確だ。そして、確実に目が覚める。一人旅の中で身につけた能力の一つである。これは連れがいるとほぼ狂う。今回も、目的のバス停で無事降りることができた。

まずは、一度ゲストハウスに戻って、休養しこれから夜の部に備えなければならない。途中、フィッシュ&チップスをテイクアウトして、食べながら戻る。ベッドに横になり暫し休む。

1830 エジンバラホグマニーのメインイベント「ストリートパーティ」へと出撃する。チケットは持った。防寒装備はまあまあか。そろそろ街の中心地・・・。あれ？意外と人は少ない。



それにチケットチェックなどもない。なぜだ！ネットで発注し、台湾までチケットを送ってもらったというのに無くても入れたのか？

まもなく、そんな疑問は氷解する。単に早すぎただけなのだ。なんか楽しみで張り切って早く来すぎてしまったようなのだ。まだ、ライブステージの設営をしているし・・・。なんだよと思いつつ、メインストリートを歩き、土産物らしき店で、スコットランドの旗がデザインされたニット帽とマフラーを15.98GBPで購入。

これでスコットランド人に成りすました。



年越しの花火まで5時間もあるのでは、そりゃ人もいないであろう。それでもウィンターワンダーランドもきれいだし、会場全体を把握するには十分な時間だ。屋台もいろいろ出ているし、食べ歩きもいいだろう。



屋台の焼きそばを試してみた。これがまた、大外れ。どんなソースを使ったらこんな味になるのか、タマネギと肉がぐちゃぐちゃになって薄茶色のペースト状になっているものが麺にかかっている。英国に来て、2つ目のまずいものに出会ってしまった。これなら、日本の小さなお祭りで消防団のお兄ちゃんがつくっている焼きそばの方が6.02×10の23乗レベルで旨い。そんな怒りの中でも食べ物を粗末にしない躰をされているので完食してしまった。そうこうするうちに突然、人がわらわらと湧いてきて同時多発的にいくつものステージでライブが始まった。思えば、初フェス体験だったのかもしれない。人の波に流されながら、様々な音に揉まれる感じがした。かなり寒いのに寒いとは認識しない。それにしても不思議な旋律だ。これがスコットランドの音楽なのだろうか。ギターとバイオリンとアコーディオンの編成なんて聞いたこともなかった。なんというバンド名だったか完全に忘れてしまった。ちゃんとメモしておけばよかった。他にもいくつものバンドがパフォーマンスを繰り広げていて、誰も

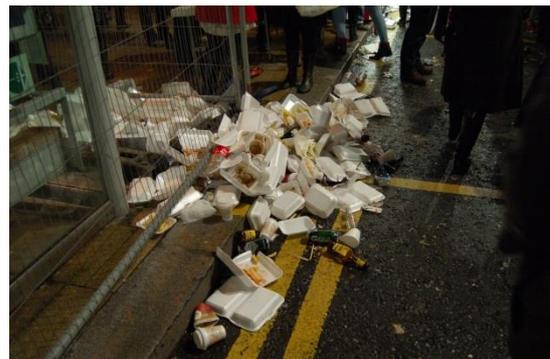
が思い思いに楽しんでいる感じだった。



とにかく音楽を楽しみ、ビールやサイダー（アルコール飲料）を飲んで騒ぐという人々に感化され、同様の行動をとってしまっていた。



会場に売られているアルコール飲料は小瓶の大きさと全てプラスチック製の容器だった。酔っ払いが多発する状況では賢明な対策である。



しかし、ゴミ対策はまだまだである。伝統あるフェスなんだから、このくらいの対策はしてほしいものである。

さて、そうこうするうちに真夜中である。ライブも一段落して、どこのステージでもカウントダウンにはいった。一斉に上がる花火。沸き起こる歓声。対抗するつもりも立場でもないが、日本の花火の方がやや整っていると思った。



明けましておめでとう！2013年の始まりだ。こんな年越しはそうあるもんじゃない。

花火が終わると、その場にいた人々すべてが歌い始めた。スコットランド民謡「オールド・ラング・サイン」。日本人的に言えば、「蛍の光」である。もちろん、歌った。日本語で。日本では終わりの曲という感じだけれど、こちらでは年始であるらしい。原曲を本場で聞いたことがうれしかった。今度来たときは原曲で歌おう。

花火が終わると少しずつ人々が帰り始めた。まだ、音楽が流れていたり飲んで騒いでいたりという状況ではあったが、調子に乗ると体調を崩すのでおとなしくゲストハウスに帰還する。



部屋に入る前に食堂の前を通ると、朝食の時間が貼ってあった。そりゃそうでしょうよ。ゆっくり寝るがいい。今日はかなり歩いたので、疲れている。明日は朝寝することにした。

DAY10 (1JAN2013) エジンバラ滞在

1000 朝食を食べに行く。スタッフはきびきびと動いていた。さすがである。



いつものスコティッシュブレックファーストで燃料を目いっぱい詰め込む。これだけであとは何も食べなくてもいいくらいだと思う。旨い。普通に旨い。何か文句でもあるのだろうか。いやない。全粒粉のパンも味わい深い。いったん部屋に戻り状況を確認した。記録を付けたり、地図を眺めて行動計画を立てたりして、午後からアーサーズシートという山に登ることにした。

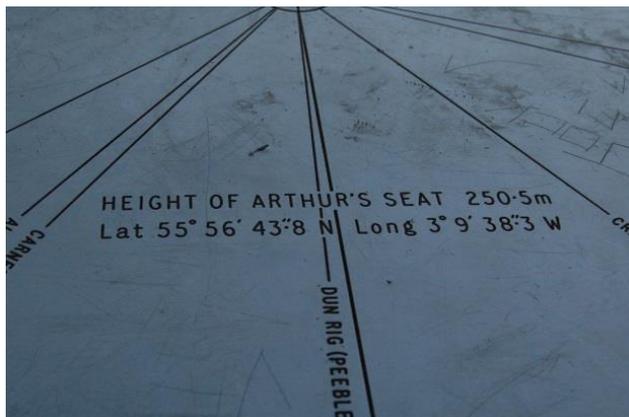


1300 New Year's Day は真っ青に晴れ渡り、何もかも新しい気がした。佐野元春「Young Bloods」が頭の中で流れる。静かで落ち着いていた。この清々しさはどここの国にいても同じなのだろうか。日本の元日も記憶にある限りではすべて気分がいい。ありがたいことだ。柔らかな日差しの中をのんびり歩く。アーサーズシートのある山はそれほど遠くない。街には人が少なく、昨夜あれだけゴミまみれだった街はきれいになっていた。深夜から早朝にかけて掃除をしてくれたであろうスタッフに心の中で深い感謝を捧げる。ゴミ対策はちゃんとされていた。

山の登り口に近づくと何やら大会をやっているようだ。自転車で走っている人もいるが、スタッフか？5日後にも大会があるようだ。いわゆる正月マラソンか。どこの国でも似たようなものがある。自分も正月登山だが・・・。



緩やかな山道をのんびりと歩く。登山というより散歩である。たいした勾配でもないし寒いので汗もほとんどかかないくらいだ。行程は楽だが、景色は変化に富んでおり切り立った崖や点在する池、草地、まだ 15 時前だというのに色づいた空を楽しんだ。



程無く頂上に付き、「アーサーの座」と呼ばれる場所で暫しぼんやりする。昨日見た海も見える。街も一望できる。こんな風に多くの人が自然を楽しんでいる様子がとても好ましかった。知らないだけで日本でもこのような風景はよくあることなのだろうか。地元じゃあまり聞かないが・・・。



明日は早い。早めにパブに行ってから寝ることにする。

DAY11 (2JAN2013) EDI→LHR→AMS→TPE

0400 起床、身支度。やはり朝食は無理。

0455 ゲストハウス発 0500 すばらしいタイミングでバス到着。空港へ。チェックイン。空港で朝食をとる。0700 ロンドンへ向けテイクオフ。

ロンドン・スタンスデッド空港着。



バスで最寄りの地下鉄駅へ。乗り換えて 1130 ロンドン・ヒースロー空港着。1450 発のフライトなので、すぐチェックインできた。3 時間後、アムステルダム経由で台北まで飛ぶ。フライトまで過ごす空港での時間はいつでも楽しい。

これで 2012-13 の冬旅「ロンドンクリスマスとエジンバラ Hogmanay」は終わりである。年末年始は基本的に自宅で家族と過ごす習わしになっているので、このような旅はもうないかもしれない。もうスコットランドにも来られないかとも思いきや、実はそうでもないのである。

「クリスマスと Hogmanay」(終)